

1816年、レディエリ奥特号によって発見されたこの孤島は、オーストラリアのグレートバリアリーフ最南端に位置する。今では、ローカルの人々にも人気のエコリゾート。コーラルシーに面した、サンゴに囲まれたこの美しい島の、海の深さは、数本潜っただけでは計り知れない。マンタが多く生息することから、“Home of the Manta ray”と呼ばれるが、ここで出会えるのは、マンタだけじゃない。何種類ものサメやエイ、カメ、イルカ、そしてクジラ。多くの海洋生物に遭遇できる、脅威の大自然にかこまれている。この島は“Mother Nature's Private Island”

Photo & Text=**Takaji Ochi**

Special thanks= キーンズランド州政府観光局、レディエリ奥特アイランド
Design= PanariDesign

目の前のギンガメアジの群れにバンドウイルカが突っ込んできて、捕食を始めた。捕食行動はダイビングが終わるまで続いていた

オーストラリア
レディエリ奥特島

LADY ELLIOT ISLAND!!!

Mother Nature's
Private Island.

凄
す
ぎ
！ 海 る ぞ



初めての海、 レディエリオットを目指して



オーストラリア
レディエリオット島

01, 小さな滑走路が島を東西に分けるレディエリオット島の全貌

02, セスナで島に到着すると、まずリゾートスタッフから、島についてのブリーフィングが行われる

03, 自分にとっては、とても懐かしいフレイザー島周辺の海

04, 緑の芝生の滑走路にセスナで着陸



ケアンズのミンキークルーズを下船したその日、ケアンズから、クィーンズランド州の州都、ブリスベンの空港を経由して、ハービーベイの小さな空港に降り立った。実は、この空港に置いてあるパンフレットを見るまで、ハービーベイがどこにあるのか、レディエリオット島がどこにあるのか、まったく把握していなかった。

取材なのにそんな事あるの？と思われるかもしれないが、実際に何も情報を仕入れていなかった。唯一、数年前に水中写真家の中村征夫さんが何度か訪れて、レディエリオット島の写真展を開催したことくらいしか知らなかった。それでも、征夫さんが撮影した島の空撮は、鮮明に脳裏に焼きついてた。レディエリオットという島の名前も印象的だったっていうのもあ

る。でも、まあ、それくらい。

パンフレットを見て、ハービーベイが、世界最大の砂だけでできた（とは言っても、植物は繁殖しているけど）フレイザー島の対岸にあることを初めて知った。レディエリオットは、その少し北のグレートバリアリーフの最南端に位置する。緯度でいうと北半球の石垣島と同じくらいだそう。

ハービーベイからセスナに乗って、レディエリオット島を目指す。離陸後、すぐに眼下にフレイザー島が見えてきた。

フレイザー島は、世界遺産。この世界最大の砂だけの島を昔家族で訪れたことがある。家族とは、僕が子供の頃、父と母、それに兄と弟の5人ですということだ。だから、もう37年も前の話。しかし、今

でも鮮明に覚えている。

レンタルしたジープで、フレイザー島のビーチ

を疾走した。川があると、橋が無いので、まず僕らが徒歩で川を渡り、浅い場所を探してジープを誘導して渡河した。（楽しかったな）そんな事を思い出しながら、フレイザー島を後にして、セスナはレディエリオット島を目指した。40分程すると窓の外に、見覚えのある形をした島が見えてきた。そう征夫さんが撮影した写真と同じ島だ。他の乗客もいて、空から島の撮影をしたいとパイロットをお願いするのを忘れていたので、ほんの少しのチャンスで島の全景を撮影した。征夫さんのような印象に残る写真は撮れなかった。

セスナは、舗装されていない、緑の草の絨毯のような滑走路に降り立った。出だしからいい感じだ。

凄すぎる海! **LADY ELLIOT ISLAND!!**

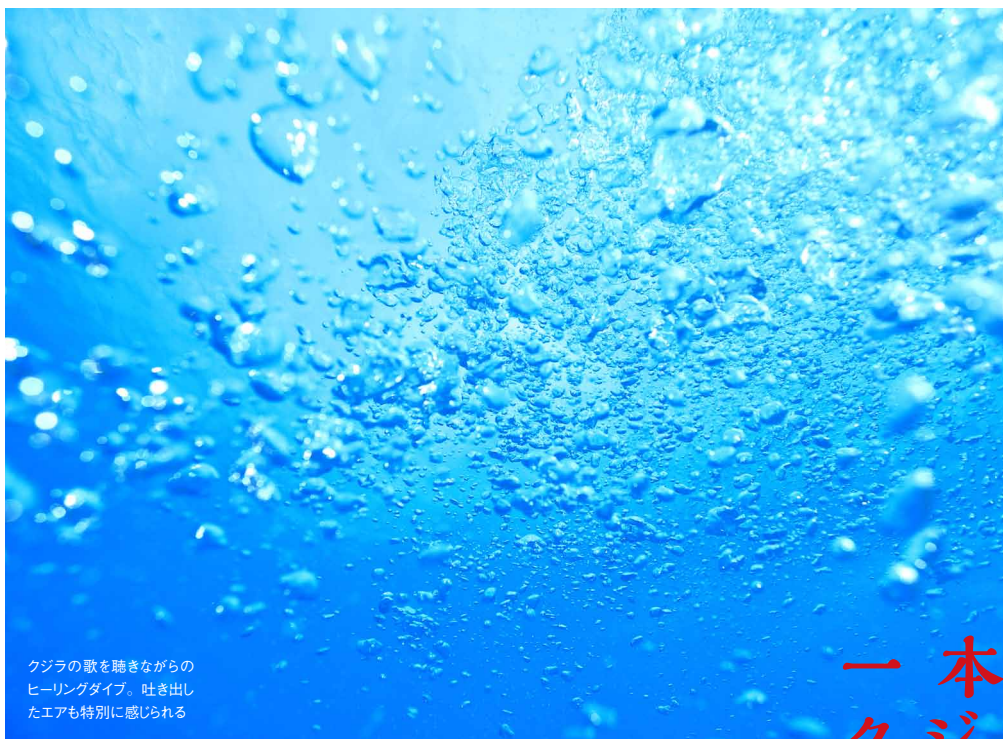
Mother Nature's Private Island.

2015 Autumn [Lady Elliot]

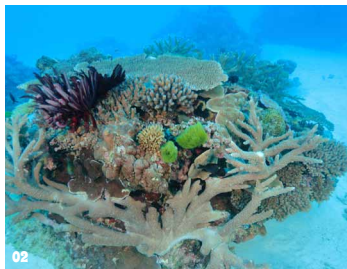
この時期、レディエリオット島の沿岸には、6月から10月にかけて、ザトウクジラが回遊してくる。さらに北の海域へ移動して、出産や子育てをするのだが、その通過地点になっているからだ。僕が訪れたときは若干シーズンには早い時期。あまり期待せずにダイビングに出かけた。ビーチで上陸用舟艇のようなダイビングボートを待ち、機材を背負ったまま、ボートに乗り込んだその瞬間、なんと目の前で子供のザトウクジラがブリーチングをした。

「あっ！ブリーチングしてる！」そう叫んで、はみたものの、もう完全装備で乗り込んでいて、身動きが取れない。陸のカメラを取り出そうにも、波が高くて思うようにいかない。子クジラはそんな僕の状況を知ってか知らずか、いたずら小僧のように、何度も、何度も、ブリーチングを繰り返していた。しょうがない、お前のやんちゃな姿は、目に焼き付けることにしよう。そう諦めた瞬間に、なんだか逆にワクワクしてきた。

マンタのクリーニングステーションが見られるという、ライトハウスボミーという砂地のポイントにエントリーして、水深15mほどの海底に降りると、早速耳を澄ましてみた。(聞こえる聞こえる)。遠くからザトウクジラのオスの歌声が聞こえてきた。でも、なぜか思い浮かぶのは、映画「ファインディング・ニモ」に出てきたクジラの真似をする、ナンヨウハギのドリー姿だった。辺りを見回すと、小さなサンゴにナンヨウハギたちの姿が。(おいおい、まさかお前たちが歌ってるんじゃないよな)。ありえないのに、そんな風に魚たちに話しかけてみたくなる。そんなダイビング。



クジラの歌を聴きながらのヒーリングダイブ。吐き出したエアも特別に感じられる



01, 気持ちのいいホワイトサンドが広がっている。ウミガメがちょこんと休憩中

02, 今回あまりふれていないが、浅瀬のサンゴの群生も素晴らしい

03, Home of the Manta Rayと呼ばれるほどマンタが多い。スノーケルでも見ることができる

ダイビング中、僕は、ずっと耳を澄まして歌声を聴いていた。時には目を閉じてみたりして。ガイドのクリスもそれをわかっているのか、何かを見せるわけでもなく、たまに、こちらを振り返りながら、サンゴの根が点在する、砂地の海底をゆっくり、ゆっくりと移動してくれる。僕も、撮影することを忘れて、久しぶりにクジラの歌声に包まれてのヒーリングダイビングを楽しんだ。もしかしたら、こんなダイビングが、一番好きだったかもしれない。

今回は水中では遭遇できなかったけど、この浅い砂地のポイントで、ダイビング中にクジラに遭遇することもあるのだそうだ。

一本目から クジラに歓迎される!

ビーチに乗り上げた上陸用舟艇のようなボートに乗り込み、ダイビング



トラックに取り付けた人を乗せるトレーラーでポイントまで移動

凄すぎる海! **LADY ELLIOT ISLAND!!**

Mother Nature's Private Island.

2015 Autumn [Lady Elliot]



01

レディエリオット島を潜っていて、一番目につくのが、ウミガメ。今回4本潜ったけど、毎回何匹ものカメに遭遇した。それだけではなくて、そのカメが、サメやナポレオン、エイや巨大なハタとコラボするシーンが多く見られた。たまたまだとは思うけど、特に狙うでも無く、そんなシーンに遭遇できたのは、ラッキーなのか、それともこの海では当たり前の事なのか？ レディエリオットは、「Home of the Manta ray (マン

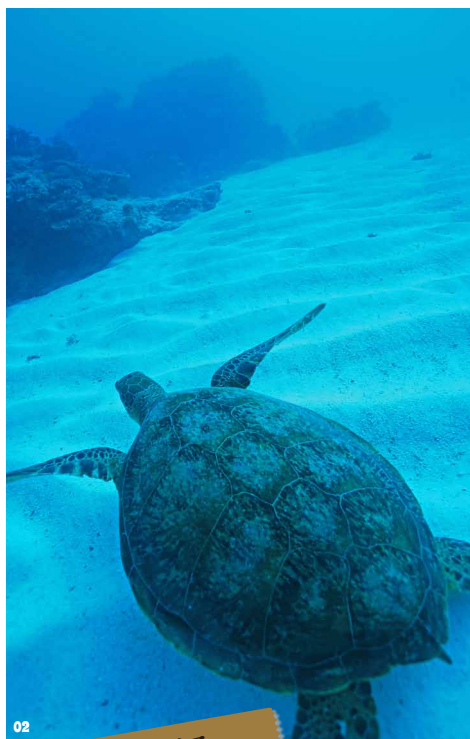
タの住処)」と呼ばれているのだけど、個人的は、「Home of the turtles (カメたちの住処)」と呼びたくなるくらい、カメたちとの遭遇が多かった。

去年、水中写真家の古見きゆう君が、ウミガメの冒険を綴った写真集「WAO!」を出版したけど、まさに、そんな世界がいくらかでも再現できる感じ。あの写真集出版前に、彼がレディエリオットを訪れていたなら、きっとその中のワンシーンにも、このカメ

が登場したかもしれないな。

そんな事を考えながら、カメたちを撮影した。カメ、カメ、カメ！ 本当にカメだらけ。サンゴにできたくぼみが気になっていたのだけど、アフタヌーンダイブでそのくぼみにカメたちが眠っているのを見て、(あ、なるほど、こいつらの寢床だったのか)と納得。まさに「Home of the turtles!」

カメ三昧「WAO!」の世界



02

オーストラリア
レディエリオット島



お気に入りのサンゴの
寢床に収まって眠るウミ
ガメたち



03



04

- 01, 巨大なエイと遭遇したウミガメ
- 02, 砂地の海底をのんびりと泳ぐウミガメ
- 03, とにかくウミガメだらけ
- 04, 巨大なハタとウミガメ

凄すぎる海! **LADY ELLIOT ISLAND!!**
Mother Nature's Private Island.

2015 Autumn [Lady Elliot]

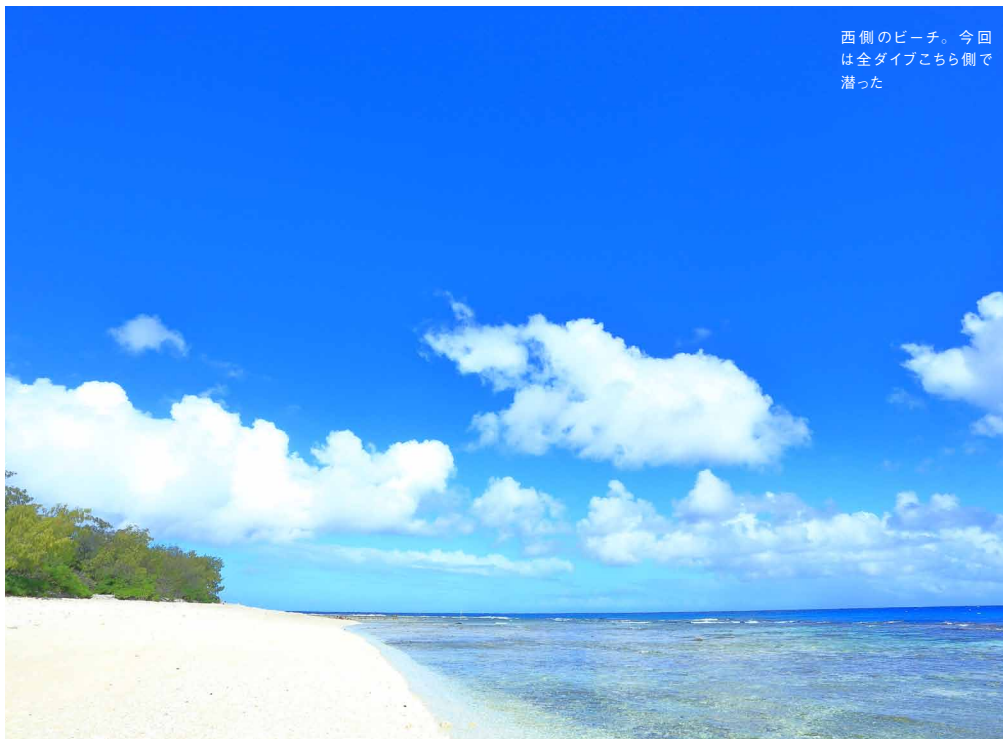




01



02



西側のビーチ。今回は全ダイブこちら側で潜った



03



04

01,レディエリオット島のシンボルにもなっているかわいい灯台

02,リゾート施設から、滑走路を抜けて、西側のビーチへと続く道

03,スノーケルもこの島での人気のアトラクション。マンタやクジラが見れることも

04,島の西側の海岸には、サンゴのかげらが堆積している

オーストラリア
レディエリオット島



可愛らしいクイナ系の鳥たちが、島のあちこちを闊歩している



海岸に群れていたアジサシ系の鳥たち

ダイビングは1日2本。残りは自由気ままに島で過ごす。自分で島を散策したり、スノーケリングしたり、昼寝したり、エコツアーに参加したり。僕は一人で島を散策してみることにした。広いリーフが広がる東側と、すぐにスノーケルポイントに出られる、西側。潮が引いた東側のリーフは、子供たちの磯遊びに最適だ。西側のスノーケルポイントのサンゴの群生は、目を見張る。

今回は東風が強く、ダイビングもほとんど西側で行った。ザトウクジラの見撃情報が多いのは、島の東側だけど、今

回は2日間とも、西側でクジラを目撃した。

島の内陸部は低木と草木が繁殖している。クイナ系の鳥たちが闊歩していて、彼らはときに、レストランや部屋の間の前まで平然と姿を見せることもある。バードウォッチングもこの島で人気。

ダイビングボートに乗船するのは、赤い屋根の白い可愛らしい灯台の目の前から。そこからビーチに出て、しばらくクジラを探しながら散策してみることにした西側のビーチは、大きなサンゴのかげらで埋め尽くされていた。

昔訪れたチュークのジープ島や、マーシャル諸島の離島みたいだ。ジープ島を

取材したとき、一緒に泊まっていた学生たちが、サンゴのかげらで木琴ならぬ、サンゴ琴を作って、音楽を演奏してくれたことを思い出した。

マーシャルでは、ハート型のサンゴを見つけて、一緒にいたゲストに手渡した。空にはちょうど虹が出ているときだった。彼女が島を離れるときに、ラブレターのような手紙を渡されたことを思い出した。

そんな旅の回想をしながら、のんびりと過ごすことができたのは、久しぶりのことかもしれない。

結局クジラは見当たらなかったけど、島全体の雰囲気が、すごく心地良い。

レディエリオット島散策

凄すぎる海! **LADY ELLIOT ISLAND!!**
Mother Nature's Private Island.

2015 Autumn [Lady Elliot]



ダイバーを気にせず、
砂地で堂々と爆睡を続
けるアカウミガメ



ダイバーを気にする事も
なく、目の前で身悶えし
続けるレパードシャーク



オーストラリア
レディエリット島

マンタにサメにコビアにイルカ！ 人生最高の1ダイブ！



クリーニングしていたマンタ
も、印象が薄い？

それは、ダイビング2日目の
モーニングダイブで
のこと。1本目にガイドしてく
れたクリスのガイドで、他の
ゲストとは別行動で潜ること
に。ビギナーダイバーと一
緒では、ちょっと距離がある
ライトハウスボミーから、セ
ヴェランスレック（沈船）まで
のコースを流すことに。

僕とクリス以外のメンバー
は、ダイビング歴30年、2000本のダイビン
グ経験のある、明日で70歳になるおばあ

ちゃんダイバーのスー。それに、クリスの
弟のニック。

エントリーするなり、ライトハウスボミーで
クリーニングするマンタに遭遇。あまり近
くでは撮影できなかったけど、第一のター
ゲットを早々に撮影できたので、リラックス
してダイビングを続けた。

しかし、凄かったのは、その後。ウミガ
メやエイが何匹も姿を見せるのは当たり
前なのだけど、そこに泳いで現れたのは、
シャベルノーズシャーク（サカタザメの一種）！
はっきり言って、マンタよりメチャクチャレ
ア。興奮を抑えてアプローチしたが、やは

り緊張が伝わったのか、360度方向転換
して泳ぎ去ってしまった。写真はどうか
撮影できた感じ。でも、午後のダイブで止
まっているところをしっかりと撮影できた。

その直後には、今度は巨大なアカウミ
ガメが砂地でぐっすり眠っていた。こんな、
無防備でいいのか？ 接近して撮影しても、
微動だにしない。皆と顔を見合せて、思
わず笑ってしまった。

また少し移動すると、クリスがサンゴの
根の上でホバリングしている生き物を指差
した。またマンタかなと思ったら、なんと巨
大なマダラエイ。（えー、マンタみたいにク

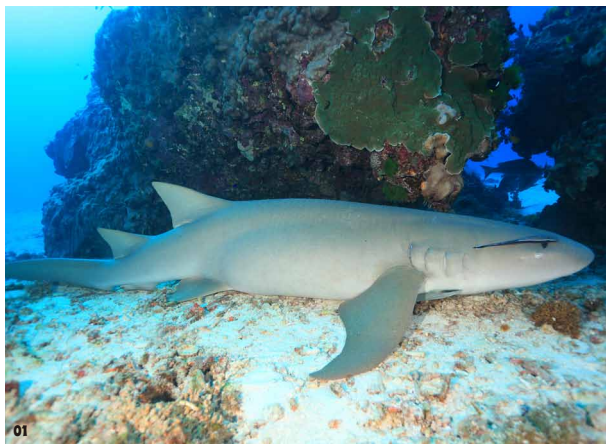
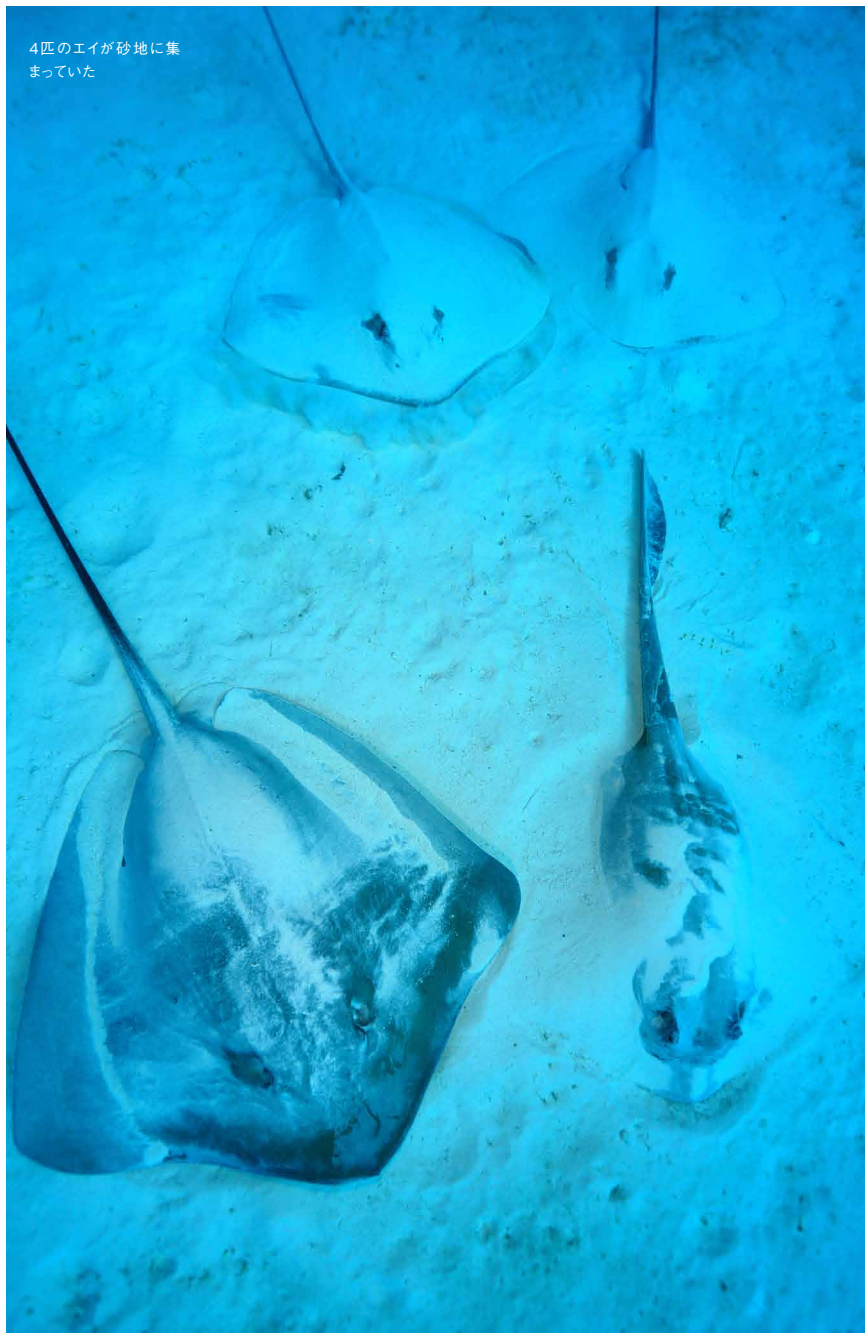
リーニングしてる！）と思って、逃げないよ
うにゆっくりアプローチしたが、こちらに気づ
いたのかクリーニングをやめて、移動を始め
た。それでも、慌てて逃げるでも無く、近く
で撮影……、と目をかすめたのは、今度は
砂地に鎮座するレパードシャーク（トラフザメ）。

凄すぎる海！ **LADY ELLIOT ISLAND!!**

Mother Nature's Private Island.

2015 Autumn [Lady Elliot]

4匹のエイが砂地に集まっていた



01, 根の下をのぞくと、オオテンジクザメが巨体を横たえていた

02, サンゴの根の上でクリーニングのためにホバリングしていた巨大なマダラエイ

03, 珍しいシャベルノーズシャークも2ダイブで目撃

04, 悠然と泳ぐマダラトビエイ



エ イを追うのをやめて、そちらに接近。すると、このレパードシャーク、突然体を激しくよじって身悶えし始めた。(なんだ!なんだ!?)と思いながら撮影。どうやら、身体についていたコバンザメが相当気になるらしい。まるで犬か猫のように、海底に身体をこすりつけて暴れまわる。またまたお

かしくて皆で顔を見合わせて大笑い。しばらく皆のことも気にせず身悶えると、落ち着いたのか何事もなかったかのように泳ぎ去っていった。

と、その頭上には、身悶えるレパードシャークを傍観するように、3匹のマダラトビエイたちが。接近しても、慌てて逃げる感じでもなかった。

しばらく行くと砂地に4匹のエイが固まっていた。しかも、アカエイ(の仲間)とツカエイの2種類。繁殖のために集まってたわけではないらしい。それを撮影していると、クリスが(あっちにサメ)のジェスチャー。向かって見ると、巨大なオオテンジクザメが2匹。サンゴの根の下で身体を休めていた。もうこれだけでも、かなり満足なダイビング。しかし、メインイベントはここからだった。

オーストラリア
レディエリオット島

凄すぎる海! **LADY ELLIOT ISLAND!!**
Mother Nature's Private Island.

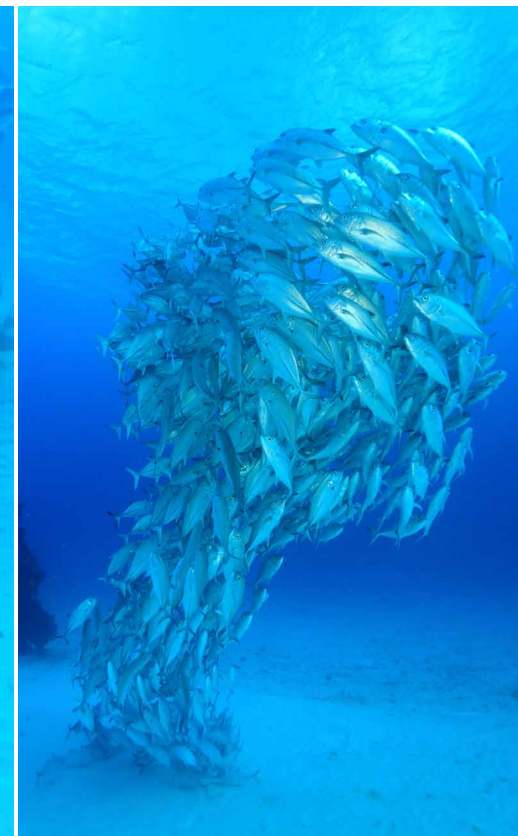
2015 Autumn [Lady Elliot]

あまりに沢山の生き物に遭遇したので、これ1本で記事になるなどほくそ笑みながら、沈船に到着したのは、ダイビングも終盤になりかけた頃の事。もやっと沈船が見えてきたところで、クリスはその先を指差したので、目を凝らすと、どうやらブリーフィングで聞かされていたギンガメアジの群れらしい。沈船を横切って、接近しようとする、海底に無数の巨大な生き物が！ その数およそ50匹！（え～～～!! ドチザメか?）と思った瞬間、その巨大な生物たちが、僕の気配に気づいて、ワラワラと動き始めた。（やばい、逃げちゃうかな?）と慌ててシャッターを切った。さらに接近すると、ドチザメでは無く、コビア（スギ）。パイロットフィッシュとして、ジンベエザメやマンタに着いて泳いでいるのは見たことがあるけど、こんな群れ初めてみた。ギンガメアジとのコラボ撮影狙いでさらに接近。

すると、ギンガメアジの群れが異様な動きをしている。渦を巻きながら、まるで一つの生命体のように形を変える。しかも同じ場所からまったく動かない。別の場所にいた別のギンガメアジの群れも、吸い寄せられるように、そちらに合流してきて、渦を巻きながら、邪悪な生命体が巨大化していくみたいに見えた。それが面白くて激写！（や～、すごく楽しいダイビングだったな～）と、思っていたら、今度はクリスが海面を指差している。



沈船に群れていたコビア（左）とギンガメアジ。なんなんだ！この光景！



一つの生命体のように形を変えるギンガメアジの群れ

（今度は何!?）とつられて見上げると、なんと、一頭のバンドウイルカが！（お～～～！ すげえ!!）とカメラを構えると、なんと逃げることなく、僕の目の前のギンガメアジの群れに突っ込んで来て、

追いつき始めた。

も うそこからは、自分も興奮状態。イルカは目の前にいる僕らのことを気にすることなく、ギンガメアジを追いつき回し続けた。（何なんだよ！このダイビング!! 凄すぎる!）それは、僕らのエアが切れて、浮上しなければならなくなっても、続いていた。

海面で僕らは全員でハイタッチ。2000

本潜っているスーは「今までで潜った中でも一番のダイビングだったわ！ 明日が誕生日だから、素敵なお祝いだった」と大喜び。7000本以上潜っている僕でさえ、こんな楽しいダイビングは、間違いなくベスト5に入るものだった。例えば変かもしれないけど、水族館でも潜ってるのか!? と思えるくらい凝縮された盛りだくさんのダイビングだった。

メインイベントは ここからだった!?

凄すぎる海! **LADY ELLIOT ISLAND!!**
Mother Nature's Private Island.



2015 Autumn [Lady Elliot]



キンガメアジの群れの中
を縦横無尽に泳ぎ回っ
たバンドウイルカのノッチ

オーストラリア
レディエリオット島

これが特別なことなのかと後でクリスに確認したら、サカタザメやエイのクリーニングは案外高確率で見られるらしい。レバードシャークの可笑しい行動は初めてみたとか。コビアの群れとギンガメアジの群れはまあ、だいたい、沈船に普通にいる。

そして、イルカ。「背びれが切れていて、僕はノッチと呼んでるんだ。たまに姿を見せるし、年に1〜2回、ああやってギンガメアジを追い掛け回すシーンに遭遇するよ」と言って、去年撮影したというビデオを見せてくれた。

ノッチって日本のコメディアンと同じ名前前でつい、イルカじゃなくて、その人の顔が思い浮かんでしまった。もう、イルカのノッチの顔をそのノッチしか思い浮かばなくなってしまったのがちょっと残念だけど、決して奇跡の遭遇というわけではなかったらしい。他のイルカが別のポイントでやはりギンガメアジを追いかける映像も見せてもらった。

他にも、死んだサカタザメを狂ったように集まってきたサメたちが食いちぎって捕食する映像。その中にはグレートハンマーヘッドシャークやタイガーシャークの姿も。2頭のザトウクジラが、水深15mのダイビングサイトに姿を見せたシーンなどなど、とにかく、この海のポテンシャルは計り知れない。

訪れる前は、まあ、マンタ撮影でできればいいかなと思っていたのに、すでにマンタをみた記憶は薄れていて、正直どうでもよくなっている贅沢な自分に気づき、笑ってしまった。

もちろん、この1ダイブでした経験を、すべて当たり前のように1ダイブで見られる

かというとなかなか難しいかもしれないが、レディエリオットでは、全て“あり得る”ダイビングが、今回1本に凝縮されていたということだ。

本当は、海は大したこと無いと思っていた。だから、最初はもっと情緒的な記事を書いて、島の雰囲気伝えようと思っていた。ところが、たった4本しか潜っていないのに、ここは、とんでも無く凄い海だということが実感できた。しかも、全部が水深

レディエリオットでは決して特別ではないダイビング

20mより浅い砂地のポイントでの出来事だ。

そして何よりも、ただ、カメを見た、サメを見た、エイを見た、イルカを見たで終わったのではなく、多くの生物たちが、とても個性的に感じられたことだ。まさに“レディエリオット島の海の住人たち”。そんな印象だった。

今の時期は水温も23度だし、一度来ればもういいかなって思った自分がバカだった。できることなら、また何度でも来たみたい。また彼らに会いに来たい。正直にそう思える、そんな海だった。



01, 呼吸をしに浮上しては、また何度も海底に戻ってきてギンガメアジを追っていたバンドウイルカ

02, ノッチはダイバーのことを気にするでもなく、ずっと目の前でギンガメアジを追い掛け回していた

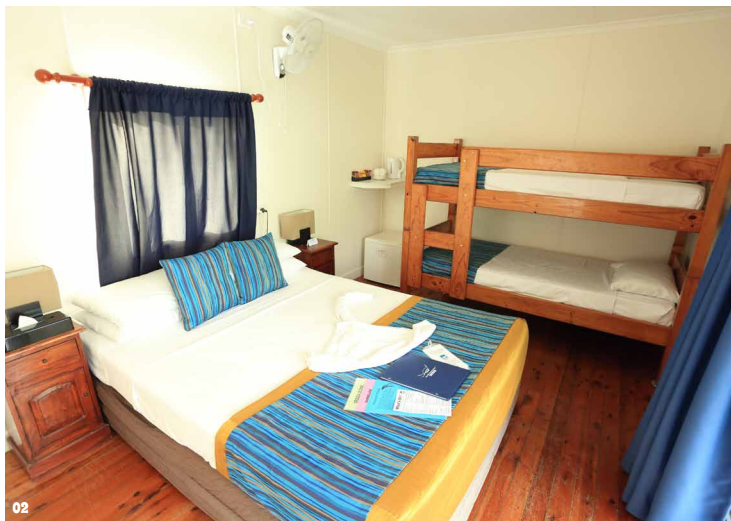
03, ギンガメアジを追い掛け回すバンドウイルカ。捕食に夢中で、ダイバーのことは気にもとめていない感じ

凄すぎる海! **LADY ELLIOT ISLAND!!**

Mother Nature's Private Island.

2015 Autumn [Lady Elliot]

オーストラリア
レディエリオット島



- 01, テントタイプのバンガローが並ぶ
- 02, 部屋の中には、クイーンサイズのベッドと2段ベッドがあり、ファミリーでも泊まれる
- 03, マンタの絵が描かれたプール。ダイビングの講習も行われる
- 04, レストランは基本ブッフスタイル。味もいける
- 05, 今回自分が宿泊したコテージタイプの宿泊施設
- 06, 島には、漂着物で作ったアート作品が展示してあった
- 07, リゾートのダイビングスタッフ。右端がお世話になったクリス

レディエリオット島は、オーストラリアらしく、環境に配慮したエコリゾート。モルディブのようなゴージャスな感じではなく、宿泊施設は日本のキャンプ場のコテージみたい。狭いけど、家族で泊まれるように、クイーンサイズのベッドに2段ベッドが設置されている。テントタイプの宿泊施設もあるけど、泊まっていた人の話では快適だとか。

ルームサービスも、必要最小限にとどめるために、タオルの交換だけ、とか、ゴミ箱のかたづけだけとか、そういうリクエストをするカードを部屋のドアにかけておくと、

居心地の良いエコリゾート レディエリオット



それだけ対応してくれる。

レストランはブッフスタイルで、美味しい。バーもシンプル。レセプションのお土産屋さん、プールや子供のプレイグラウンド、デイトリップのゲストやエコツアー参加者に対してレクチャールームがある他は、ダイビングショップと緑の滑走路というシンプルなりゾート。そして何よりもスタッフやゲストの雰囲気が良い。シーズンのなものかもしれないけど、島にいる人の数もちょうど良い加減。金額もリーズナブルなため、ローカルの観光客も多い。

ウミガメの産卵（12月～2月）やハッチアウト（2月～4月）、クジラの季節（6月～10月）、マンタは通年。シーズンによって見れるものが違うから、見たいものを調べて訪れるのがオススメだ。



Access

レディエリオット島へは、ゴールドコースト、ブリスベン、ハービーベイなどからセスナが出ている

オーストラリア
レディエリオット島

凄すぎる海! **LADY ELLIOT ISLAND!!**
Mother Nature's Private Island.

2015 Autumn [Lady Elliot]